

大分県竹田市における地域おこし協力隊が
運営に携わる交流施設の実態
— 地方都市における移住・定住の促進に関する研究 —

大分大学福祉環境工学科建築コース
建築・都市計画研究室
4年 宮下達平

1. 研究の背景と目的

わが国の**地方都市**では、急速な**人口減少**だけでなく、若年層の**転出超過**が続いている。そのため、地方都市の課題として日常生活を支える**人材不足**が挙げられている。

地域おこし協力隊制度

地域力の維持・強化に取り組み協力隊の**定住・定着**を図る

総務省「これからの移住・交流施策のあり方に関する検討会」より、今後、「地域と多様に関わる者」と地域とをつなぐ「**中間支援機能**」が求められている。

既往研究 (平成30年度修士論文 大分大学太田裕喜)

全国の市町村の中で協力隊員数が最も多い**大分県竹田市**に注目し、移住後の課題として「**地域住民との交流上の課題**」を挙げている。

定着率が全国と同程度である同市では、任期中と任期終了後の協力隊員が運営に携わる**移住支援機能**や、イベントを開催するなどの**交流機能**を有した施設が開設されている。

これらの施設が「**地域住民との交流上の課題**」の解決に寄与することが期待できる

目的

- ①協力隊員による施設開設の要因
- ②交流施設の整備における交流機会を誘発する要因
- ③協力隊員の役割

地方都市における地域おこし協力隊員が運営に携わる交流施設の**交流促進**及び、**移住定住の一助**となる知見を得る。

3. 大分県竹田市の地域おこし協力隊員4. 竹田市における交流施設

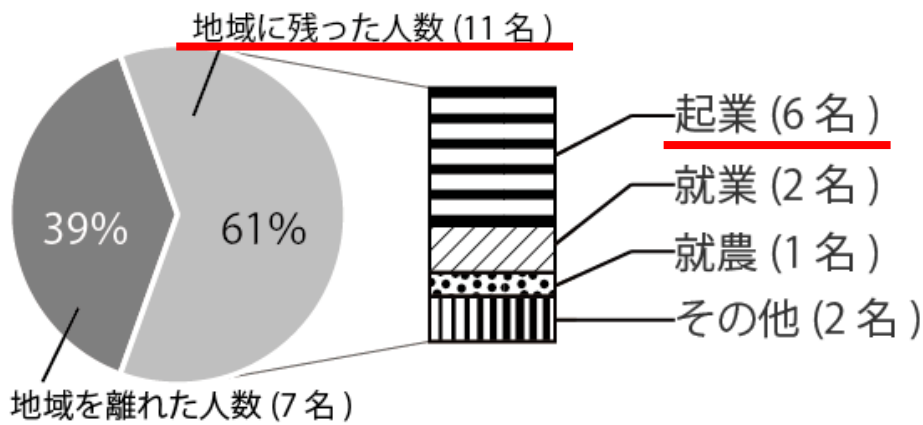


図1 H26年度採用協力隊員の任期終了後の動向

- ヒアリング調査より
- 竹田市歴史・文化資源活用型起業支援事業補助金(H22～)
 - 協力隊の活動経費

協力隊の任期終了前に**空き家活用**や**起業の促進に関する制度**を準備していたことが**施設開設の要因の1つ**



図2 交流施設の立地

対象施設の選定

- 任期中任期終了後の協力隊員が運営に携わる交流施設
- 移住体験や移住相談窓口などの**移住支援機能**を有する交流施設

施設1・2を選定し、運営者にヒアリング調査を実施

5-1. 交流施設1の変遷と空間構成

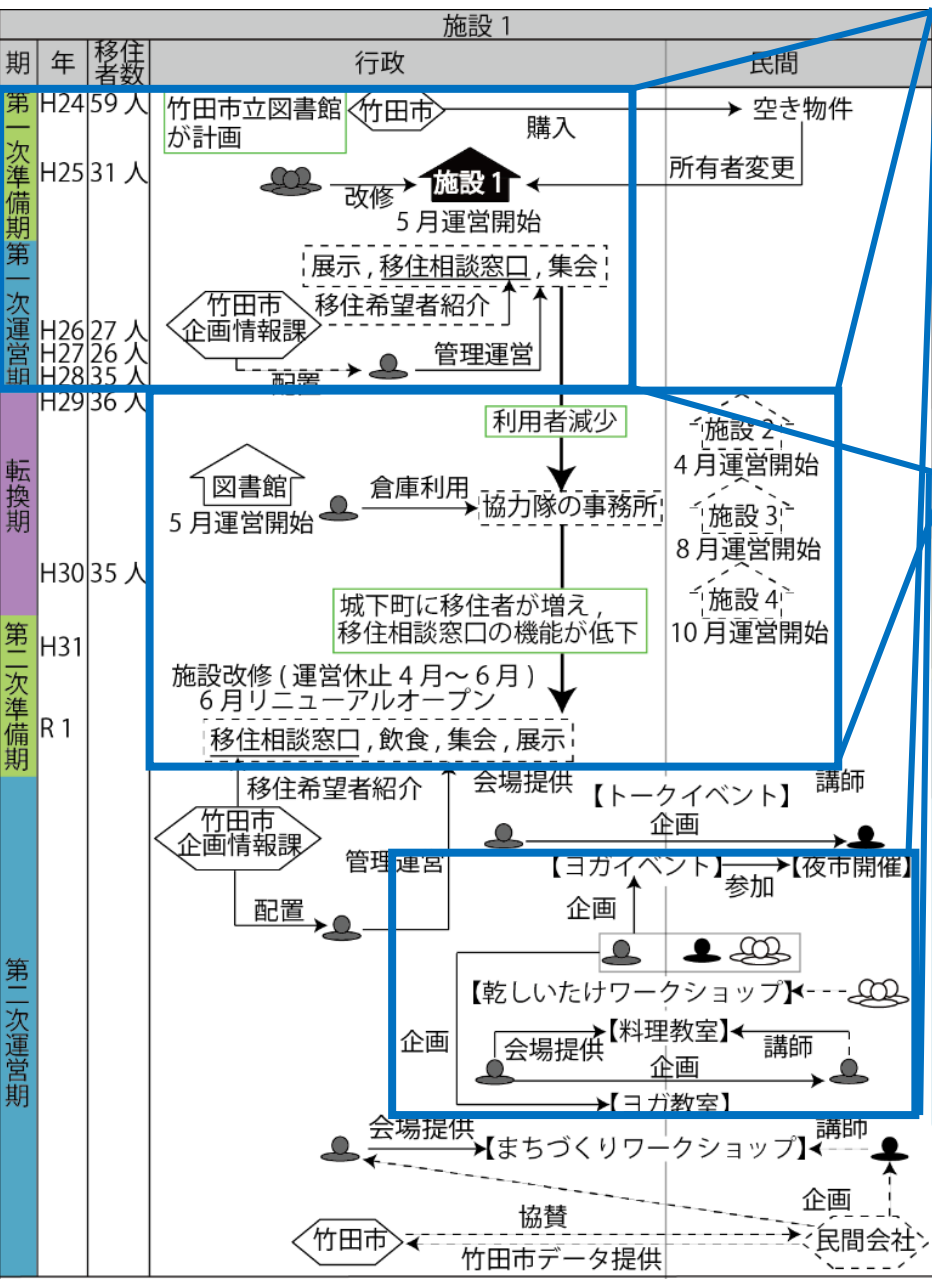
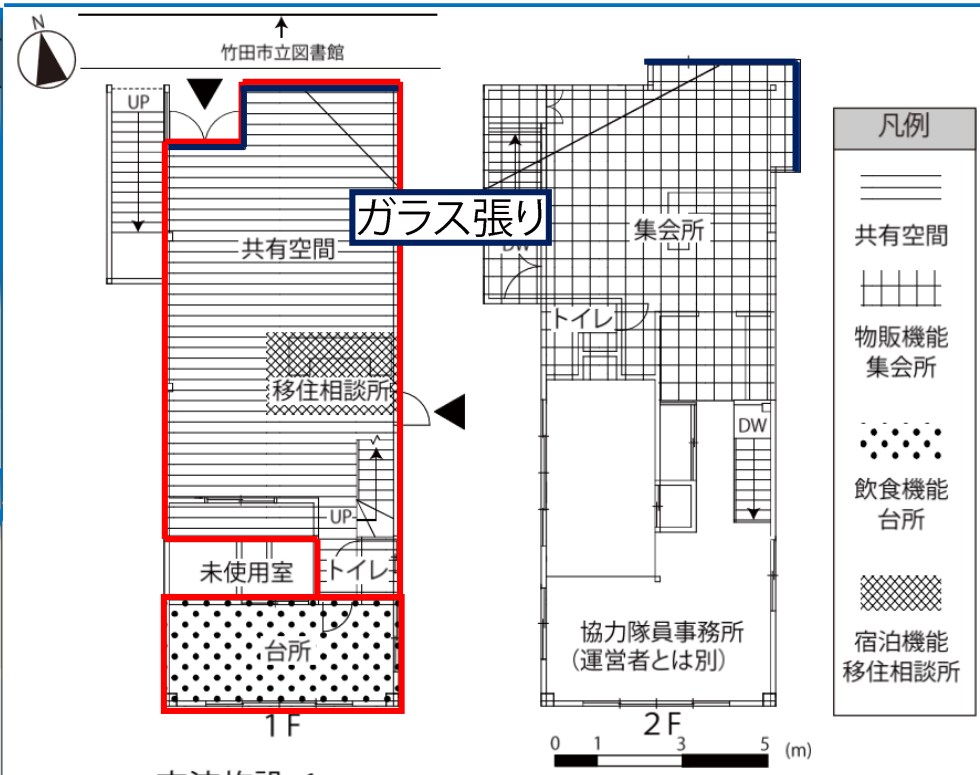


図3 交流施設1の変遷図



交流施設1

図4 交流施設1の空間構成

移住相談窓口の機能低下に伴い、移住者協台所を整備したことで、共有空間での**飲食イベントの開催**が可能になった

施設内での交流が通りから**視認しやすい**人が参加できる**イベントを開催**する

地域住民と移住者, 協力隊員との**交流機会の促進を図る**ことが可能になった

5-2. 交流施設2の変遷と空間構成

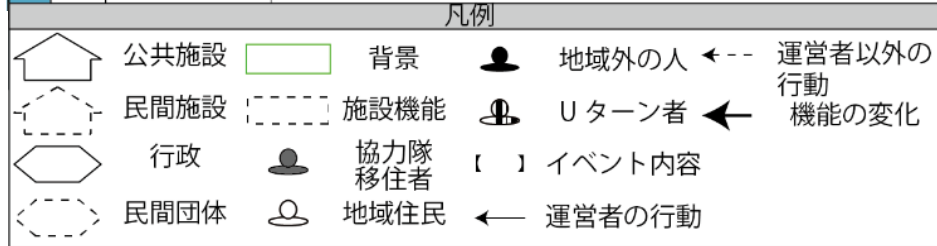
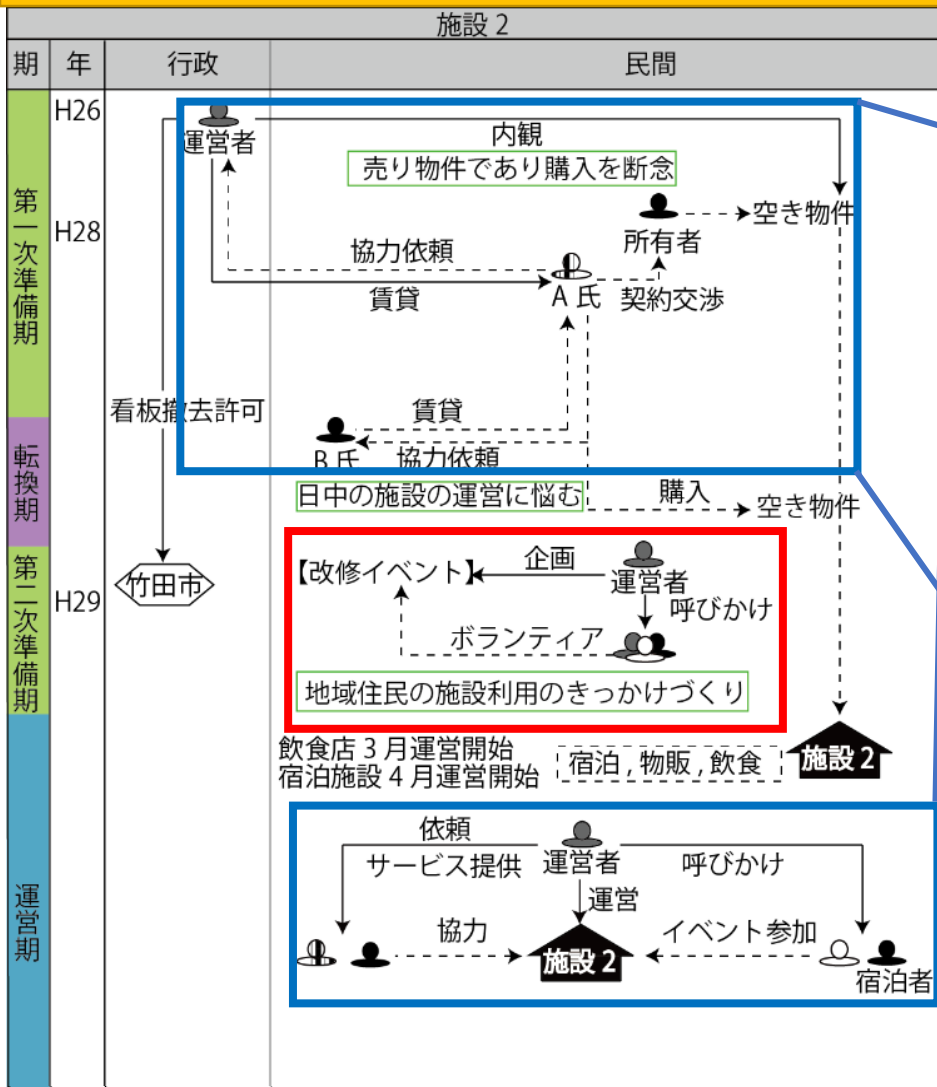


図5 交流施設2の変遷図



改修作業をイベント化する」と連携して、運
飲食機能と物販機能を有する共有空間を整備する

施設内での交流が通りから視認しやすい

宿泊者以外にも利用できる、飲食機能を設置し、
宿泊者と地域住民や協力隊員など、多様な人との交流機会を創出した

図6 交流施設2の空間構成

6. 総括

●協力隊員による施設開設の要因

協力隊の任期終了前に,**空き家の活用や起業に関する支援制度**が整えられていたこと

●交流施設の整備における交流機会を誘発する要因

改修イベントの実施や,飲食機能や宿泊機能など**多様な人を滞留させる機能**を複数設けること

交流機会を図る空間が,**通りから視認**できること

●協力隊員の役割

施設内でイベントを行うなど,任期中や任期終了後の協力隊員の双方が,地域住民と移住者,協力隊員の**中間支援機能の役割**を担っている